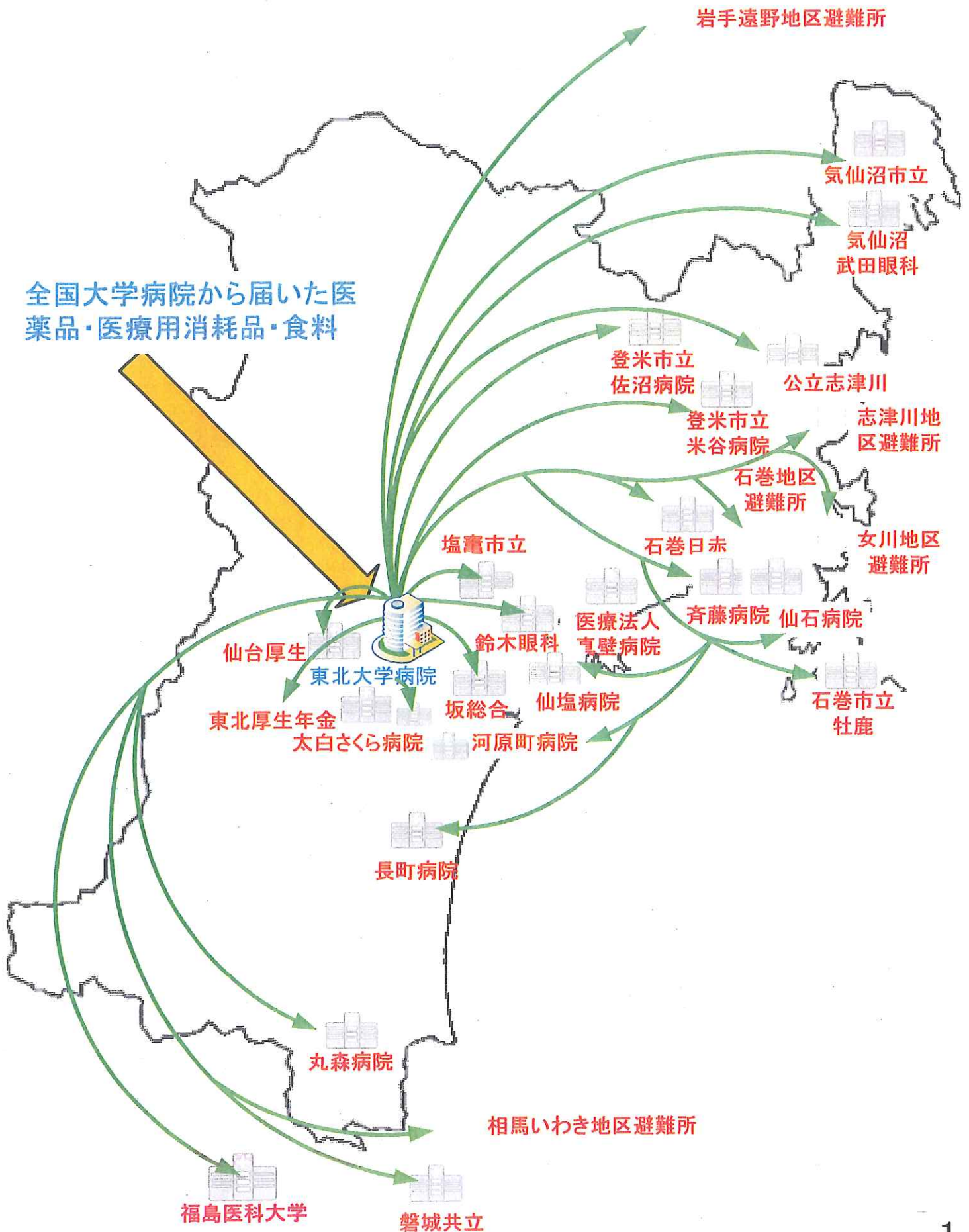


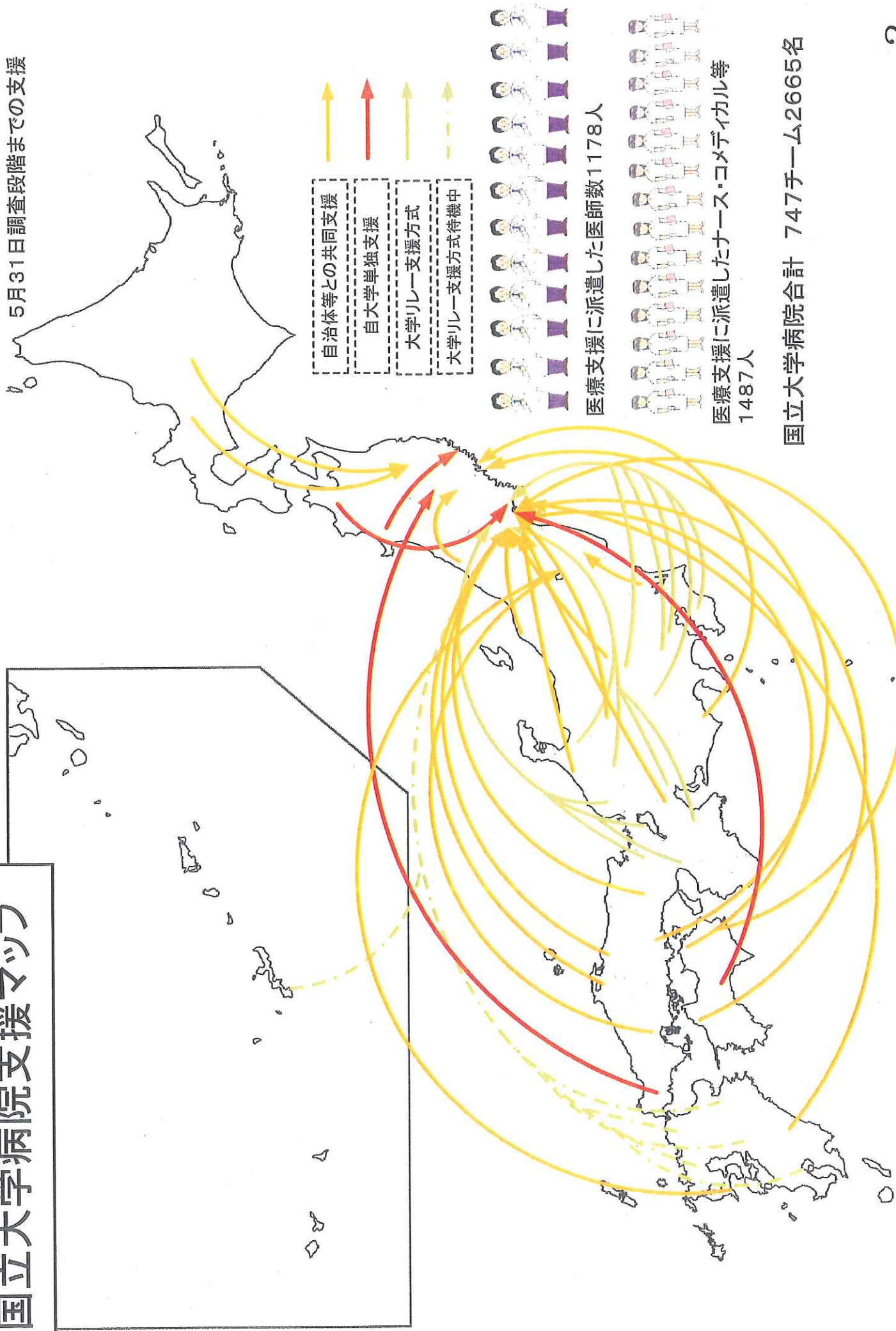
大学病院を拠点とした医薬品・医療用消耗品の的確な配送

東北大学病院は、全国の大学病院から届いた医薬品・医療用消耗品・食料と自病院の在庫を各地の病院や避難所に緊急配送し、被災地域の最後の砦として機能した。



国立大学病院支援マップ

5月31日調査段階までの支援



国立大学病院合計 747チーム2665名

リレー方式に移行した病院又は待機中の病院も自治体等との共同支援や自大学単独支援をそれまで実施してきたが、矢印が重複するため省略。

被ばく医療に対応

広島大学病院・広島大学原爆放射線医科学研究所・広島大学緊急被ばく医療推進センターが連携して緊急被ばく医療チームを派遣。
長崎大学病院は福島県・福島県立医科大学・自衛隊の関係機関と連携して、福島第1原発から20～30km圏内の在宅診療に対応。

福井大学では医学部・附属病院・附属国際原子力工学研究所の協力で、被ばく医療の専門家を福島県に派遣。

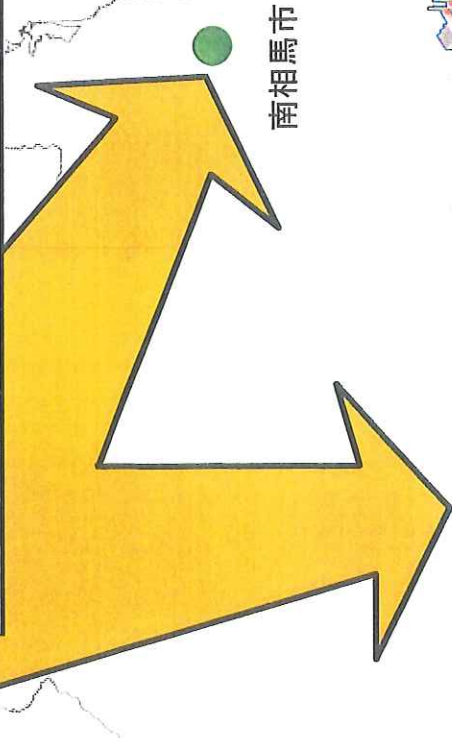
弘前大学病院は高度救命救急センターにおいて被ばく患者を受け入れる体制を整備し、人材育成を行っており、福島県に緊急被ばく医療チームを派遣。

この他緊急被ばく医療体制を充実させてきた愛媛大学等の多くの大学病院から専門家が福島県に派遣された。

被ばくサーベイランス

- 各避難施設を回り、被ばくスクリーニングを実施、福島県内の環境調査、甲状腺モニタリングも実施。
- 避難住民が荷物を搬出するため、一時立ち入りする際の事前の住民への問診や立ち入り後の被ばくスクリーニングなどを実施しているもので、国立大学病院は教員、医師、看護師、事務職員等を派遣。

	医師	理学博士	看護師	放射線技師	事務職
5/25～5/28	1		2	1	1
6/3～6/6	2		2	1	1
6/6～6/9	2	1	1		1
6/17～6/20	1	1	1	1	1



福島県

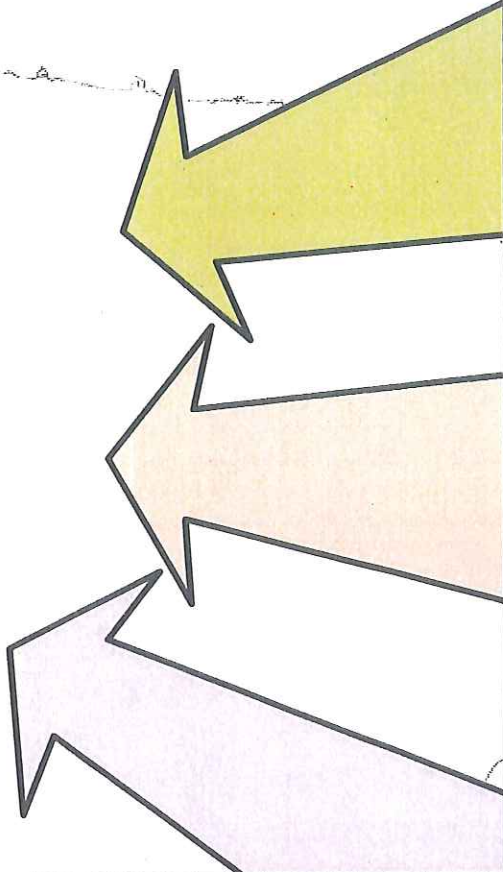
南相馬市



弘前大学病院 被ばく状況調査派遣人員

	医師	教員	看護師	放射線技師	事務職	延べ人数
第1次	3/15～3/20	2	1			16
第2次	3/16～3/20			2	1	15
第3次	3/16～3/20			2	3	50
第4次	3/20～3/24		2	2	2	4
第5次	3/24～3/28		1	1	1	2
第6次	3/28～4/1		1	1	2	3
第7次	4/11～4/16		1	1	1	2
第8次	4/25～4/28		2		1	10
第9次	5/9～5/13		1	1	1	15
第10次	5/16～5/20		1	1	1	15
第11次	5/23～5/27		2			15
第12次	5/30～6/3		2			15
第13次	6/6～6/10		2			15
第14次	6/13～6/17		1	1		15
第15次	6/20～6/24		2			15
第16次～第20次	までが予定されている					336

第16次～第20次までが予定されている教員は工学博士・理学博士・水産学博士等専門教員を整理。



被ばく医療に対応

広島大学病院・長崎大学病院・福井大学・愛媛大学等も被ばく医療の専門家チームを続々と派遣し対応した。